

釣り文化振興モデル港

はじめに

地方創生を目的とした観光等の取り組みを政府全体で進めている中で、国土交通省港湾局においては、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めています。

一方、立入を禁止した防波堤等での釣り人の転落事故等も見受けられますが、安全対策をしっかりと行い、ルールを作り、関係機関の連携の下、防波堤等の港湾施設を多目的使用をしていくことが、むしろ事故の防止・減少につながることも考えられます。

そのため、国土交通省港湾局では、港湾施設本来の用途又は目的を阻害しないことを前提とし、多目的使用の用途又は目的を満足させるため、関連する法令や国の考え方について確認し、とりわけ、ニーズの高い防波堤等の釣り利用を検討する際に留意する事項等について整理した、「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」を定めるとともに、今回ご紹介する「釣り文化振興モデル港」という取り組みを行っています。

釣り文化振興モデル港とは

国土交通省港湾局では、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取り組みが進められている港湾を「モデル港」として募集し、「釣り文化振興モデル港」として指定しています。

このモデル港の指定にあたっては、以下の要件を総合的に判断しています。

- ① 釣りによる地域創生・地域活性化を図るといふ地域の意向があること。
- ② 釣り客の需要が一定程度見込まれること。
- ③ 釣果が見込まれる防波堤等の港湾施設があること。
- ④ 地元関係者からなる協議会等が組織されていること。

募集はこれまで3回に分けて行われており、現在、21港がこの「釣り文化振興モデル港」として指定を受けています(図1)。

釣り文化振興モデル港への支援策

「釣り文化振興モデル港」には、以下の支援策があります。

- 直轄事務所による協議会等の効率的な運営に関する技術的な支援
- 「(公財)日本釣振興会」による安全対策やマナー教育への支援
- 「全国会議」における情報交換・交流
- 国交省港湾局からの情報発信等による広報



図1 「釣り文化振興モデル港」位置図

モデル港の取り組み事例

ここでは苫小牧港の安全管理の取り組みと、熱海港の釣り文化振興の紹介をします。

苫小牧港における安全管理の取り組みとして、協議会で安全対策や管理運営体制を議論し、各種マニュアルの作成や救命ボート・救命器具の設置等を行うとともに、試験開放により安全対策上の問題を入念に解決した上で、港湾管理者の合意のもと港湾施設の解放を行い、親子釣り教室などが開催されています(写真1)。

熱海港における地域活性化の取り組みとしては、市内提携料理店での釣った魚の料理提供、官民一体となったイベント開催などが行われています(写真2)。



写真1 苫小牧港 親子釣り教室の様子



写真2 熱海港 おさかなフェスティバルの様子

このような取り組みにより、釣り文化の振興並びに観光資源として展開することで観光振興を実現しています。

また、令和7年5月30日より、釣り文化振興モデル港の募集を行っています。なお、今回の募集より通年募集・通年指定となります。